

第2 平成27年度

精神保健福祉センター事業概要

- 1 技術指導及び技術援助活動
- 2 教 育 研 修
- 3 調 査 研 究 等
- 4 広 報 普 及 活 動
- 5 自立支援医療（精神通院医療）及び精神障害者保健福祉手帳
- 6 精 神 医 療 審 査 会
- 7 組 織 の 育 成
- 8 精 神 保 健 福 祉 相 談
- 9 アルコール関連問題に関する相談指導事業
- 10 思 春 期 関 連 問 題 相 談 事 業
- 11 心 の 健 康 づ く り 推 進 事 業
- 12 精 神 科 外 来 診 療
- 13 デ イ ケ ア 事 業
- 14 ひきこもり地域支援センター事業
- 15 自 死 予 防 情 報 セ ン タ ー 事 業

〔精神保健福祉センター事業概要〕

1 技術指導及び技術援助活動

保健福祉事務所及び関係機関に対し専門的立場から指導と援助を行った。

(1) 保健福祉事務所に対する援助

内 容	仙 南	仙 台			北 部	北 部 (栗原)	東 部	東 部 (登米)	気 仙 沼	県	仙 台 市	他 県	計
		塩 釜	(再 掲)										
			岩 沼	黒 川									
老人精神保健	1												1
社会復帰	6	17	(9)	(2)	14	2	9		3	2			53
アルコール		1			2		6			1			10
薬物													0
思春期保健							3						3
心の健康づくり								2	5				7
ひきこもり		3	(1)				11	1	12	1			28
自殺関連	1	3	(1)	(1)		2		2	1	1			10
犯罪被害													0
その他	3	11	(3)	(3)	6		13	1	9	4		1	48
計	11	35	(14)	(6)	22	4	42	6	30	9	0	1	160
(再掲)事例検討							4						4
(再掲)事業推進会議	2	2			2		1	1	7	2			17
(再掲)災害関連		5	(1)	(1)	1		5		2	2		1	16

(2) その他の機関に対する技術援助

内 容	市 町 村	医 療 施 設	福 祉			そ の 他					計	
			介 護 保 険 施 設 等	障 害 者 支 援 施 設	社 会 福 祉 施 設	教 育 機 関 等	産 業 (労 働)	司 法 関 係	学 生 教 育 ・ 実 習	そ の 他		
老人精神保健	3											3
社会復帰	35	27		8	19	1		20			27	137
アルコール	8	5									8	21
薬物		1									3	4
思春期保健	1					3		1				5
心の健康づくり	28	6		2	3		2				21	62
ひきこもり	23	1			1	10					14	49
自殺関連	12	1				3	3	3			3	25
犯罪被害	1							1				2
その他	41	28		8	5	9	7	4			51	153
計	152	69	0	18	28	26	12	29	0		127	461
(再掲)震災関連	16	4		0	0	1	1	0			35	57

2 教育研修

精神保健福祉センター主催の研修会

保健福祉事務所, 精神病院, 社会復帰施設, 学校等の精神保健及び福祉に関する職員に対して, 次のような研修会を実施した。

研修名	対象	目的	内容	開催期日	参加人数
精神保健福祉基礎講座Ⅰ	市町村・保健福祉事務所等関係職員, 精神科医療機関・相談支援事業所等で精神障害者の相談支援に携わる経験年数の浅い者	精神障害に関する基礎知識や支援について習得し, 精神障害者の理解を深め, より良い支援の提供を目指すとともに地域で活動するための連携の強化を図る。	・講義1「精神疾患の基礎知識について」 講師 精神保健福祉センター 技術副参事兼技術次長 小原 聡子 ・講義2「精神障害者保健福祉手帳及び自立支援医療(精神通院)について」 講師 精神保健福祉センター 横関万喜子 ・講義3「精神障害者の理解と支援について」 ～体験を通して～ 講師 当事者 2名 ・グループワーク「お互いの活動を知ろう」	平成27年 5月11日(月)	87名
精神保健福祉基礎講座Ⅱ	同上	面接の意義や重要性を確認すると共に, 話の聴き方等基本姿勢を習得しより相手の気持ちや状況に寄り添った面接が実践できるようになる。	・講義・演習「相談支援のための面接技術について」 講師 みやぎ心のケアセンター 副センター長 山崎 剛 氏 みやぎ心のケアセンター石巻地域センター 保健師 桑島 由美 氏	6月25日(木)	50名
精神保健福祉実践講座	市町村・保健福祉事務所等関係職員, 精神科医療機関・相談支援事業所等職員	青年期・成人期の発達障害について理解を深め, よりよい支援の提供につなげる。	・講義「大人の発達障害について」 講師 宮城県立精神医療センター 医療局長 船越 俊一 氏	10月16日(金)	40名
地域移行研修	市町村・保健福祉事務所等関係職員, 精神科医療機関・相談支援事業所等職員	入院中の精神障害者の病状安定後の早期退院と地域生活の定着を目指し, 本人の意向に沿った移行支援と地域の生活支援を行えるよう関係職員の支援技術向上を目的とする。	仙台市精神保健福祉総合センター, 日本精神看護協会 宮城県支部共催 ・講演「その人らしい地域生活を目指して～医療と福祉が一緒に考える」 講師 医療法人小憩会 ACT-ひふみ看護師 加藤由香氏 ・事例検討 助言者 医療法人小憩会 ACT-ひふみ看護師 加藤由香氏	9月26日(土)	94名
思春期問題研修会	市町村・保健福祉事務所関係職員, 高等学校教諭, 警察関係職員, 精神科医療機関職員, 思春期相談関係職員等	教育現場及び地域等の関係者におけるネット依存の知識と対応に関する基礎的な理解を深める。	・講演「ネット依存の実態と対処～日本での新たな取り組み」 講師 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 精神科 中山 秀紀 氏	8月3日(月)	100名
アルコール関連問題研修会Ⅰ	市町村, 保健所, 精神科医療機関, 相談支援事業所等関係職員	被災沿岸部を中心にアルコール問題の増加が話題になり, 問題飲酒者とその家族には様々な支援者が関わっている。事例検討を用いて課題整理を効果的に行い, 支援に生かす。	・講義「ケアマネジメントのための症例検討の企画」 講師 横浜市立大学付属病院児童精神科医師 青山久美 氏 ・事例演習(グループワーク) 事例提供者 大崎保健所 技師 菅原 彩 氏 講師 横浜市立大学付属病院児童精神科医師 青山久美 氏	12月17日(木)	26名
アルコール関連問題研修会Ⅱ	市町村, 保健所, 精神科医療機関, 相談支援事業所等関係職員	薬物乱用の未然防止や啓発強化と共に薬物乱用者及びその家族に対する支援体制の充実のため, 薬物依存に関する知識と相談技術を学ぶ。	・講義1「薬物依存症の本人と家族の苦しみを理解しよう～支援者として繋がるためには～」 講師 東北会病院 院長 石川 達 氏 ・講義2「宮城県における薬物問題の現状」 講師 仙台保護観察所 統括保護観察官 阿部 志津枝 氏	平成28年 2月3日(水)	35名

研修名	対象	目的	内容	開催期日	参加人数
地域自死対策研修会Ⅱ	市町村・保健所等関係職員、 精神科医療機関職員、相談支 援事業所関係職員等	アルコール問題がある者等の支 援困難な事例に活用できるよう、 「変わらない」相談者への働きかけ や動機付け面接法の実際を学 ぶ。	・講義及び演習 「動機付け面接法」 —「変わらない人」を「変わる人」へ誘導する— 講師 成増厚生病院 診療部長(精神科医) 後藤 恵 氏	11月27日(金)	35名
自死遺族支援シンポジウム ※自死遺族支援連絡会主 催	自死遺族、市町村・保健所・教 育・その他自死遺族支援に関 わる機関、関心のある一般県 民	自死遺族当事者や支援者を取り巻 く現状の問題点について理解する ことを目的とする。	シンポジウム「自死遺族の現実いま」 コーディネーター 河北新報社 寺島 英弥 氏 シンポジスト ・当センター 技術副参事兼技術次長 小原 聡子 ・仙台わかちあいのつどい藍の会代表 田中 幸子 氏 ・東北希望の会代表(過労死・過労死自死遺族とサポータ ーの会) 前川 珠子 氏 ・社会福祉法人仙台的のちの電話 小田島 佳子 氏 ・仙台グリーンケア研究会代表 滑川 明男 氏 ・土井法律事務所弁護士 土井 浩之 氏	9月20日(土)	60名
若年者メンタルヘルス対策 研修会	市町村・保健所等関係職員、 高等学校教諭・養護教諭等、 スクールカウンセラー、大学健 康管理室等担当者、若年者支 援機関関係職員等	若い世代の自死者は減っておら ず、若年者メンタルヘルス対策は 重要な課題といえる。地域で若年 者支援に取り組めるよう、現代の 若者の現状を共有し支援のあり方 を考える。	・講話「若者の自死予防～関係性の変化と大人達が出来 ること～」 講師 ヘルスプロモーション推進センター代表(医師) 岩室 紳也 氏	平成28年 2月15日(月)	72名
復興期のこころのケア研修 会Ⅰ ※みやぎ心のケアセンタ ー共催	市町村・保健福祉事務所関係 職員	自然災害や重大事故が国内で起 こっている。震災の経験を生かし た災害対応マニュアル作成や DPAT 体制整備の一環として WHO版心理的応急措置について 学ぶ。長	・講話「WHO版サイコソジカルファーストエイド(PFA)に ついて」 ・演習 ロールプレイ、シミュレーション ・講師 TELL 東京いのちの電話 荻原 かほり 氏 みやぎ心のケアセンター 地域支援部長 福地 成 氏 当センター技術副参事兼技術次長 小原 聡子	平成27年 12月9日(火)	17名
復興期の心のケア研修会 Ⅱ ※みやぎ心のケアセンタ ー共催	市町村・保健福祉所関係職 員、精神科医療機関、心のケ アセンター職員等	震災から4年経過し、復興への取 り組みが進む中、地域では様々な 支援者がキーパーソン不在の処 遇困難事例等のケース検討会が 頻繁になっている。検討会主催に あたり支援技術を学ぶ。	・講話「アセスメント技術とケース検討会の進め方」 ・個人演習及びグループワーク 講師 大正大学人間学部臨床心理学科教授 近藤 直司 氏	平成28年 3月9日(水)	29名
ひきこもり支援関係者研修 基礎講座	市町村・保健福祉事務所関係 職員、高等学校関係職員、相 談支援事業所・民間支援機関 等関係職員等	ひきこもりに関わる支援者が、ひき こもりに関する基本的な考え方や 支援に関する理解を深める。	講話「ひきこもりの理解と支援」 講師 当センター 技術副参事兼技術次長 水本有紀 講話「家族の立場から」 講師 家族 講話「当事者の立場から～当事者数名と対談形式で ～」 講師 当事者	平成27年 11月16日(月)	61名
ひきこもり支援関係者研修 実践講座	市町村・保健福祉事務所関係 職員、高等学校関係職員、相 談支援事業所・民間支援機関 等関係職員等	ひきこもりに関わる支援者が、ひき こもりに関する理解を深め、段 階に応じた具体的な支援を学ぶと ともに様々な支援機関の活動を知 り、連携を図ることを目的とする。	・講話「ひきこもり支援について～家族支援を中心に～」 講師 当センター 技術副参事兼技術次長 水本有紀 ・事例検討(グループワーク) 事例提供 石巻地域若者サポートステーション 統括コーディネーター 小澤慎太郎 氏	平成28年 1月18日(月)	20名

3 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために、精神保健の諸問題を調査研究するとともに、精神保健福祉に関する統計及び資料を収集整備した。

- (1) 宮城県救急医療機関における自殺未遂者に関する実態調査
- (2) 東北・北海道ブロック精神保健福祉センター所長会研究協議会
「地域における申請・通報事例への対応状況調査」
「ひきこもり相談事例から考える」
- (3) 紀要 43 号発行，関係機関に配布，ホームページに掲載。

4 広報普及活動

一般県民及び関係機関に対して精神保健福祉の知識の普及を図る目的で次のような活動を行った。

- (1) 講話等
 - 1) 広報課みやぎ出前講座「働く人の心の健康～うつ病を中心に～」への講師派遣 5回
 - 2) 市町村等における講話等への講師派遣 10回（自死予防・ひきこもり支援対策関係除く）
- (2) 「メンタルヘルスガイド ほっとするー（第3版）」のホームページの公開
精神障害者とその家族が利用できる精神保健福祉制度やサービス，社会資源等をまとめ，ホームページ上で公開した。

5 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳

精神障害者の医療及び福祉を充実するため，自立支援医療（精神通院）の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の交付を行った。

- (1) 自立支援医療（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳審査会の開催
委員 10名（うち県職員3名）
開催回数 24回（月2回開催）
- (2) 自立支援医療（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第52条）
申請者数 17,647名 承認者数 17,625名
- (3) 精神障害者保健福祉手帳（精神保健福祉法第45条）

(3) 精神障害者保健福祉手帳（精神保健福祉法第45条）

申請者数 4,065名 交付者数 4,026名（内新規者数 647名）

6 精神医療審査会

精神障害者に対して人権に配慮した適正な医療及び保護の確保を図るため、宮城県精神医療審査会における医療保護入院者入院届、定期病状報告書、退院等請求の審査等を行った。

区 分	件 数
精神医療審査会 委員 19人 開催回数 全体会 1回 会長・班長会議 1回 合 議 体 24回	医療保護入院者入院届 1,557件 措置入院者定期病状報告書 13件 医療保護入院者定期病状報告書 892件 退 院 等 請 求 12件 合 計 2,474件
指定病院強化対策補助事業 医療保護入院届け及び定期病状報告書 に係る文書料	対象病院 23ヶ所 合 計 2,330件 6,990,000円

7 組織の育成

地域精神保健活動の向上を図るため、地域住民参加による組織的な活動が行われるように、下記の団体等の育成に努めた。

団体名	援助回数	主な支援内容	従事職員延人数
宮城県精神保健福祉協会	7	精神保健福祉大会の支援，組織運営に関する支援	15
宮 城 県 断 酒 会	22	組織育成支援	会場の提供
宮城県自死遺族支援連絡会	4	各団体の活動状況等情報交換，連携体制づくりへの支援	10
みやぎ心のケアセンター	14	震災対応や組織運営等に関する支援	20
石巻地域不登校・ひきこもり支援ネットワーク	14	各団体の活動状況情報交換等，ネットワークづくりの支援	28

8 精神保健福祉相談

精神保健及び精神障害者福祉の相談・指導を行った。特に、複雑又は困難な相談に対応した。さらに、アルコール・薬物・思春期等の特定相談を実施した。

(1) 来所相談

1) 年度別推移

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新規相談実件数	84	85	82	116	83
前年度からの継続実件数	18	25	31	35	43
合計（実件数）	102	110	113	151	126
相談者総数（延件数）	308	435	441	618	542

2) 性別・年齢別相談件数（実人数）

性別	年齢							計
	15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
男	0	12	29	23	8	2	1	75
女	2	11	14	15	6	2	1	51
計	2	23	43	38	14	4	2	126

3) 相談延件数

性別	年齢							計
	15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
男	0	58	105	103	49	2	1	318
女	2	68	93	43	8	9	1	224
計	2	126	198	146	57	11	2	542

4) 来所経路別相談件数 (実人数)

相談種別 来所経路	老人精神保健	社会復帰	アルコール関連	薬物関連	ギャンブル関連	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	計
自発的来所	0	0	0	0	2	5	33	4	0	0	10	54
家族や知人からの勧め	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	1	16
センターの電話相談から	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
医療機関からの紹介	0	0	1	0	0	2	4	0	0	0	5	12
保健所からの紹介	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	1	7
市町村からの紹介	0	0	0	0	1	1	5	1	0	0	1	9
教育機関からの紹介	0	0	0	0	0	9	2	0	1	0	0	12
その他の公的機関からの紹介	0	0	0	0	0	2	6	1	0	0	1	10
その他の機関からの紹介	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	4
計	0	0	1	0	3	20	74	6	1	0	21	126

5) 相談内容別相談件数 (実人数)

相談種別 相談内容	老人精神保健	社会復帰	アルコール関連	薬物関連	ギャンブル関連	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	計
心の不調	0	0	0	0	0	2	17	3	0	0	5	27
体の不調	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
家族の問題	a 家庭内暴力	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	4
	b DV	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	c その他	0	0	0	0	1	27	1	1	0	2	32
子育て・介護の問題	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
対人関係の問題	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	6
生活・仕事・経済的な問題	0	0	0	0	0	1	18	1	0	0	6	26
学校の問題	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	11
依存症の問題	a アルコール関連	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	b 薬物問題	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	c ギャンブル関連	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
	d その他	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3
非行・反社会的行動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病気・治療について	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	2	5
その他	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3
計	0	0	1	0	3	20	74	6	1	0	21	126

6) 保健福祉事務所別相談件数（実人数）

相談種別 管轄	老人精神保健	社会復帰	アルコール 関連	薬物 関連	ギャンブル 関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	摂食 障害	てんかん	その他	計	割合%
仙 南	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
仙 台	塩 釜	0	0	0	0	1	3	0	0	0	1	5	4.0%
	岩 沼 支 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	黒 川 支 所	0	0	0	0	0	2	5	0	0	2	9	7.1%
北 部	0	0	1	0	1	8	42	4	1	0	14	71	56.3%
北部（栗原）	0	0	0	0	0	3	7	1	0	0	4	15	11.9%
東部（登米）	0	0	0	0	1	3	8	0	0	0	0	12	9.5%
東 部	0	0	0	0	1	2	4	1	0	0	0	8	6.3%
気 仙 沼	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.8%
仙 台 市	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	1.6%
そ の 他	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	2.4%
計	0	0	1	0	3	20	74	6	1	0	21	126	100%

7) 年度末処理状況

相談種別 処 遇	老人精神保健	社会復帰	アルコール 関連	薬物 関連	ギャンブル 関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
終 了	0	0	0	0	2	13	43	1	0	0	11	70
次年度へ継続	0	0	1	0	1	7	31	5	1	0	10	56
計	0	0	1	0	3	20	74	6	1	0	21	126

(2) 電 話 相 談

1) 性別・年齢別相談件数（延件数）

相談対象者	年 齢	15歳 以下	16～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60歳 以上	年齢 不詳	計	合計
	一般電話	男	3	18	35	44	18	7	6	21	
	女	8	20	22	40	29	14	13	18	164	
	不 明	5	6	1	1	0	0	0	36	49	
こころの 相談電話	男	6	22	153	429	152	48	34	36	880	2,983
	女	5	19	83	161	348	254	101	42	1,013	
	不 明	3	0	0	0	0	0	0	1,087	1,090	
合 計		30	85	294	675	547	323	154	1,240	3,348	3,348

2) 職業別・年齢別相談件数 (延件数)

※ () は震災に関する相談の再掲

職業	年齢	15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	年齢不詳	計
学 生		25	20	20	1	3	3	0	1	73(0)
会 社 員		0	47	40	83	60	42	0	16	288(0)
自 営 業		0	0	4	14	13	10	6	5	52(0)
ア ル バ イ ト ・ パ ー ト		0	3	21	76	84	27	7	6	224(0)
主 婦		0	0	14	31	103	68	69	4	289(0)
そ の 他		2	0	5	153	8	3	7	9	187(0)
無 職		0	12	133	226	170	127(3)	36	24	728(3)
不 明		3	3	57	91	106	43	29	1,175	1,507(0)
計		30	85	294	675	547	323(3)	154	1,240	3,348(3)

3) 相談種別ごとの電話のかけ手 (延件数)

※ () は震災に関する相談の再掲

相談種別 かけ手	老人精神保健	社会復帰	アルコール関連	薬物関連	ギャンブル関連	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	計
本 人	2	2	11	0	6	14	2,051(1)	55	7	1	841(2)	2,990(3)
家 族	6	1	11	1	6	43	107	4	2	0	81	262(0)
知 人	0	0	0	0	1	1	10	0	0	0	4	16(0)
そ の 他	1	1	2	0	2	12	30	2	0	0	30	80(0)
計	9	4	24	1	15	70	2,198(1)	61	9	1	956(2)	3,348(3)

4) 相談種別による処遇内訳件数 (延件数)

※ () は震災に関する相談の再掲

相談種別 処遇内容	老人精神保健	社会復帰	アルコール関連	薬物関連	ギャンブル関連	思春期	心の健康づくり	うつ・うつ状態	摂食障害	てんかん	その他	計
助 言 指 導	8	3	20	0	4	47	2,097(1)	50	8	1	906(2)	3,144(3)
来 所 予 約	0	0	1	0	4	9	26	3	0	0	8	51(0)
医 療 機 関 紹 介	0	0	0	0	4	6	16	2	1	0	11	40(0)
そ の 他 の 機 関 紹 介	1	1	3	1	3	8	59	6	0	0	31	113(0)
計	9	4	24	1	15	70	2,198(1)	61	9	1	956(2)	3,348(3)

9 アルコール関連問題に関する相談指導事業

(1) 来所相談（精神保健福祉相談のうちアルコール関連問題の相談を再掲）

1) 性別・来談者別相談件数（実人数）

性別 \ 区分	本人のみ	本人及び 家族のみ	関係者 及び家族	計
男	0	0	0	0
女	1	0	0	1
計	1	0	0	1

2) 性別・年代別相談件数（実人数）

性別 \ 区分	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男	0	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	1	0	0	1
計	0	0	0	1	0	0	1

3) 年度末処理状況（実人数）

性別 \ 処遇	助言・終了	継続	計
男	0	0	0
女	0	1	1
計	0	1	1

10 思春期関連問題相談事業

(1) 来所相談（精神保健福祉相談のうち思春期関連問題の相談を再掲）

1) 性別・来談者別相談件数（実人数）

区分 性別	本人が 来所	本人及び 家族	本人及び 関係者	家族及び 関係者	家族のみ	関係者 のみ	計
男	0	3	0	0	6	1	10
女	0	7	0	1	2	0	10
計	0	10	0	1	8	1	20

2) 性別・来談者別相談件数（延件数）

区分 性別	本人が 来所	本人及び 家族	本人及び 関係者	家族及び 関係者	家族のみ	関係者 のみ	計
男	0	40	0	0	12	1	53
女	0	26	0	1	4	0	31
計	0	66	0	1	16	1	84

3) 相談内容別相談経過（実人数）

相談内容 相談経過	心の 不調	体の 不調	家族の 問題	対人 関係の 問題	生活・ 仕事・ 経済	学校の 問題	依存症 の問題	非行・ 反社会 的行動	病気・ 治療に ついて	その他	計
終了	2	0	1	1	0	7	1	0	1	0	13
継続	0	0	1	1	1	4	0	0	0	0	7
計	2	0	2	2	1	11	1	0	1	0	20

11 心の健康づくり推進事業

社会生活環境の複雑化等に伴い、ストレスなどによるノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増大しているため、昭和62年11月から相談窓口を開設し、県民の精神的健康の保持増進に努めた。

(1) 心の健康ダイヤル

1) 相談種別ごとの電話のかけ手（延件数）

※（ ）は震災に関する相談の再掲

相談種別 かけ手	老人精神保健	社会復帰	アルコール 関連	薬物	ギャンブル 関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
本人	2	2	6	0	5	10	1,937(1)	45	7	1	774(2)	2,789(3)
家族	5	1	10	1	4	17	72	4	1	0	52	167(0)
友人	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	1	8(0)
その他	0	0	1	0	1	0	8	0	0	0	9	19(0)
計	7	3	17	1	10	27	2,024(1)	49	8	1	836(2)	2,983(3)

2) 相談種別による処遇内訳件数（延件数）

※（ ）は震災に関する相談の再掲

相談種別 処遇内容	老人精神保健	社会復帰	アルコール 関連	薬物	ギャンブル 関連	思春期	心の健康 づくり	うつ・ うつ状態	摂食 障害	てんかん	その他	計
傾聴・助言	7	2	14	0	3	26	1,988(1)	45	8	1	823(2)	2,917(3)
医療機関 紹介	0	0	0	0	4	0	6	1	0	0	1	12(0)
関係機関 紹介	0	1	3	1	3	1	30	3	0	0	12	54(0)
来所相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0(0)
計	7	3	17	1	10	27	2,024(1)	49	8	1	836(2)	2,983(3)

12 精神科外来診療

センターにおける事業の一環として、外来診療を実施し、精神障害者の治療にあたった。（精神科デイケアを含む）

(1) 月別外来件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
診療 日数等	診療日数	21	18	23	22	20	18	20	19	17	18	20	20	236
	新患（実数）	1	2	1	1	0	0	1	1	2	1	0	0	10
	全診療件数（延）	208	175	185	194	150	178	189	160	150	166	180	184	2,119
検査等	血液・尿検査	0	2	3	4	1	1	0	2	2	1	3	1	20
	院内処方箋	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	院外処方箋	113	96	111	107	98	110	102	97	87	99	101	122	1,243

(2) 性別年代別新規外来患者件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

性別	年齢	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	計
	男		1	16	16	7	4	6
女		4	24	19	11	9	2	69
計		5	40	35	18	13	8	119

(3) 性別年代別外来患者件数（延件数）

性別	年齢	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	計
	男		1	190	218	159	53	70
女		34	705	348	142	175	24	1,428
計		35	895	566	301	228	94	2,119

(4) 保健福祉事務所別・年代別外来件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

管轄		年齢							計	割合 %
		19 歳以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳以上			
仙	南	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
仙台	塩釜	0	0	3	0	0	0	3	2.5%	
	岩沼支所	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	黒川支所	0	2	1	1	0	1	5	4.2%	
北	部	3	29	19	12	9	7	79	66.4%	
北	部（栗原）	2	5	6	2	1	0	16	13.4%	
東	部（登米）	0	2	5	2	3	0	12	10.1%	
東	部	0	2	0	0	0	0	2	1.7%	
気	仙沼	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
仙	台	0	0	0	1	0	0	1	0.8%	
県	外	0	0	1	0	0	0	1	0.8%	
計		5	40	35	18	13	8	119	100.0%	

(5) 診断結果別・年代別外来件数（実人数：新患実数＋前年度からの継続再来実数）

診断名	年齢							計
	19 歳以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳以上		
アルコール関連障害	0	0	0	0	0	0	0	
精神作用物質による精神障害	0	0	0	0	0	0	0	
統合失調症・統合失調症型障害	3	13	11	4	4	3	38	
気分障害	1	13	14	11	8	3	50	
神経症性障害	0	9	6	2	1	1	19	
摂食障害	0	1	1	0	0	0	2	
睡眠障害	0	0	0	0	0	1	1	
人格及び行動障害	0	0	2	0	0	0	2	
精神遅滞	0	1	0	0	0	0	1	
青年期の行動・情緒の障害	1	2	1	0	0	0	4	
脳器質性精神病	0	0	0	0	0	0	0	
てんかん	0	1	0	0	0	0	1	
その他	0	0	0	1	0	0	1	
計	5	40	35	18	13	8	119	

13 デイケア事業

当センターデイケアは、社会保険診療精神科デイケア施設基準（大規模、平成13年4月1日認可）に基づく施設である。精神疾患を有する人を対象に、集団療法、個別面接、家族面接などを通して、自己の障害に対する理解、自信の回復を深め、生活技術の向上、社会参加の促進を目的として実施した。対象者を概ね35歳以下としており、次のステップにむけての「通過型」として位置づけている。

(1) デイケア

1) 実施日数 174日 (前年 178日)

2) 参加者の状況

1日平均出席者数 3.4人(前年 5.3人)
出席者延数 594人(前年 943人)

前年度からの 継続利用者(人)	今年度 新規利用者(人)	今年度利用者 (実数)(人)	終了者 (人)	次年度 継続利用者(人)
23	5	28	10	18

3) 参加者の年齢区分

(人)

年齢 性別	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35歳以上	計
男	0	1	5	3	0	9
女	3	6	8	2	0	19
計	3	7	13	5	0	28

4) 終了者の状況

(人)

	就職 復職	就労移行・ 継続事業所	相談支援・ 地域活動支援 センター	その他の 支援施設	就学 復学	家業 家事 (手伝い)	在宅	その他	計
男	2	0	1	0	0	0	1	0	4
女	2	1	0	0	0	0	1	2	6
計	4	1	1	0	0	0	2	2	10

14 ひきこもり地域支援センター事業

「宮城県ひきこもり地域支援センター」として、ひきこもりに関する相談、家族会、研修等の事業を行った。

(1) 来所相談

1) 相談件数

	平成25年度 (H26.1~3)	平成26年度	平成27年度
新規相談実件数	7	29	22
継続相談実件数	10	20	29
合計(実件数)	17	49	51
相談者総数(延件数)	35	272	264

2) 性別・来談者別相談件数(実人数)

性別	本人のみ	本人及び 家族	家族のみ	関係者 及び家族	計
男	2	5	32	2	41
女	0	3	7	0	10
計	2	8	39	2	51

3) 性別・年代別相談件数(実人数)

性別	~19歳	20代	30代	40代	50代以上	計
男	5	20	13	3	0	41
女	2	3	3	2	0	10
計	7	23	16	5	0	51

4) 年度末処理状況(実人数)

性別	助言・終了	継続	計
男	15	26	41
女	2	8	10
計	17	34	51

(2) 電話相談

1) 性別・年齢別相談件数 (延件数)

性別	年齢								計
	15歳以下	16～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	年齢不詳		
男	0	8	21	15	2	0	6	52	
女	0	2	3	7	3	2	0	17	
不明	1	0	1	0	0	0	14	16	
合計	1	10	25	22	5	2	20	85	

2) 電話のかけ手 (延件数)

かけ手	本人	家族	友人	その他	計
	21	43	3	18	85

3) 処遇内訳件数 (延件数)

処遇内容	助言指導	来所予約	医療機関紹介	その他の紹介	計
	47	18	1	19	85

(3) 青年期 (ひきこもり) 家族会

ひきこもり等の問題を抱える家族を対象に家族会を実施した。

	回数	参加家族数	参加実件数	参加延件数
平成26年度	12	31	39	213
平成27年度	12	30	39	195

会の前半は講話・勉強会、後半はグループに分かれ近況報告・情報交換を実施。

(4) 研修会

ひきこもり等支援を行っている関係者を対象にひきこもりの理解と支援についての研修会を行った。

研修名	対象	内容	開催期日	参加人数
ひきこもり等支援関係者研修基礎講座	市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員	①講話「ひきこもりの理解と支援」 講師：当センター 精神科医 水本有紀 ②講話「家族の立場から」 講師：家族 ③講話「当事者の立場から ～当事者数名と談話形式で～」 講師：当事者数名	平成27年 11月16日 (木)	61人
ひきこもり等支援関係者研修実践講座	市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、高等学校関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員	①講話「ひきこもり支援について ～家族支援を中心に」 講師：当センター 精神科医 水本有紀 ②事例検討（グループワーク） 事例提供：石巻地域若者サポートステーション 統括コーディネーター 小澤慎太郎氏 ③まとめ・助言 助言者：石巻地域若者サポートステーション 統括コーディネーター 小澤慎太郎氏 当センター精神科医 水本有紀	平成28年 1月18日 (水)	20人

(5) 関係機関とのネットワークづくり

石巻地域の不登校・ひきこもり支援に関わる団体・機関で構成する、「石巻地域不登校・ひきこもり支援ネットワーク」の一員として、運営会議に出席し（11回）、研修会およびシンポジウムを開催した。

研修名	対象	内容	開催期日・会場	参加人数
石巻地域不登校・ひきこもり支援学習会	市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、児童相談所、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員	①出席機関活動紹介 ②情報交換	平成27年 5月27日 (水) 石巻合同庁舎会議室	14人
石巻圏域不登校・ひきこもり支援関係者研修会	石巻圏域の中学校・高等学校の養護教諭等、石巻圏域市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、児童相談所、子ども総合センター、民間支援機関等関係職員等	①講話「不登校・ひきこもり事例から支援を考える」 講師：当センター 精神科医 水本有紀 ②支援機関活動紹介 ③情報交換	平成27年 9月14日 (月) 石巻合同庁舎会議室	11人
不登校・ひきこもり支援シンポジウム（石巻専修大学不登校問題検討会と共催）	石巻圏域の小中学校教員、教育事務所職員、市町村・保健福祉事務所等行政機関関係職員、相談支援事業所・民間支援機関等関係職員、及び学生、一般県民	①不登校問題に関するアンケート調査の報告 ②シンポジウム「石巻圏域における不登校問題の現状と課題～関係者の連携強化に向けて～」 コーディネーター： 木村民男氏（石巻専修大学人間学部） シンポジスト： 小松 隆氏（石巻市立山下中学校） 川田知宏氏（石巻市教育委員会） 門馬 優氏（NPO法人TEDIC代表） 水本有紀（当センター） ③支援機関活動紹介	平成28年 2月12日 (金) 石巻専修大学	70人

15 自死予防情報センター事業

「宮城県自死予防情報センター」を平成27年6月1日に精神保健福祉センター内に開設し、自死に関する相談、人材育成、普及啓発、ネットワーク構築等の事業を行った。

(1) 来所相談

1) 性別・年代別相談件数（実件数）

区分 性別	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代 以上	計
男	0	1	0	1	0	0	2
女	1	0	0	0	0	0	1
計	1	1	0	1	0	0	3

2) 対応内訳件数（実件数）

対 応	継 続 相 談	精 神 科 紹 介	他 機 関 紹 介	計
	2	1	0	3

3) 年度末処理状況（実件数）

処 理 状 況	継 続	終 了	計
	0	3	3

(2) 電話相談

1) 性別・年齢別相談件数（延件数）

年齢 性別	～19歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60歳 以上	年齢 不詳	計
男	4	3	7	10	10	0	2	36
女	1	8	9	20	6	8	3	55
不明	0	0	0	0	0	0	4	4
合計	5	11	16	30	16	8	9	95

2) 電話のかけ手（延件数）

か け 手	本人			自死 遺族	家族	知人	支援者	自死 相談計	その他	合計
	希死念慮	自殺準備	自殺企図							
	55	3	2	4	9	2	3	78	17	95

3) 処遇内訳件数（延件数）

処 遇 内 容	傾聴・ 助言	来所 面接	医療機 関紹介	他機関 紹介	緊急 介入	その他	計
	61	1	1	13	0	19	95

(3) 人材育成

各自治体での自死対策の推進を図るため、行政関係者等を対象に研修会を実施した。

研修名	対象	内容	開催期日	参加人数
地域自死対策研修会Ⅰ	行政・医療機関・警察・消防担当者	講義および事例演習：自殺未遂者支援：基本的な知識と相談対応の実際 講師：国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 自殺予防総合対策研究センター 研究員 高井美智子 先生	平成27年 7月24日	47名
地域自死対策研修会Ⅱ	行政・医療機関・警察・消防担当者	講義および演習：「動機付け面接法」 －「変わらない人」を「変わる人」に誘導する－ 講師：成増厚生病院 診療部長（精神科医） 後藤 恵 先生	平成27年 11月27日	35名

(4) 自死遺族支援

宮城県自死遺族支援連絡会に参加（3回）し、自死遺族支援のためのシンポジウムを開催した。また、全国自死遺族フォーラム2015に参加し、現状や課題の共有を図った。

研修名	対象	内容	開催期日・会場	参加人数
自死遺族支援シンポジウム ※宮城県自死遺族支援連絡会主催	一般県民、自殺予防および自死遺族支援に携わる関係者等	テーマ「自死遺族の現実 ～いまこんな問題で悩んでいませんか～」 コーディネーター： 株式会社河北新報社 寺島英弥氏 シンポジスト 仙台わかちあいのつどい藍の会代表 田中幸子氏 東北希望の会（過労死・過労自死遺族とサポートの会）代表 前川珠子氏 仙台的のちの電話すみれの会代表 小田島佳子氏 仙台グリーンケア研究会代表 滑川明男氏 土井法律事務所 弁護士 土井浩之氏 精神保健福祉センター 医師 小原聡子	平成27年 9月6日 （日） 仙台市 医師会館	55人

(5) 普及啓発

- 1) 一般向けリーフレット「大切なあなたを守りたい」を8000部作成し、関係機関に配布した。
- 2) 未遂者向けリーフレット「つらい気持ちを聴かせてください」を2000部作成し、救急医療機関や各保健所、各市町村へ配布した。
- 3) 相談先を周知する啓発グッズ（ポケットティッシュ）3000個を作成し、自殺対策強化月間に合わせて街頭で配布した。
- 4) ホームページを開設し、情報提供に努めた。

(6) ネットワーク強化

医療機関（救命救急センター付属病院）・県内警察署・関係機関等にヒアリング及び連携確認実施した。

(7) 技術支援

自死対策推進会議などにおける自死対策に関するコンサルテーション（角田市、登米市、石巻市、東松島市）